

開設後、徐々に診療体制を拡充

朝来医療センターは2023年10月に産婦人科外来を開設しました。患者さんの増加に伴い、診療体制を徐々に拡充させています。産婦人科、木原智子医師に現状や課題を聞きました。



産婦人科 医師 木原 智子 きはら・ともこ

朝来医療センターの産婦人科外来では、妊娠30週までの妊婦健診をはじめ、月経困難症や更年期障害といった婦人科疾患を診療しています。手術や精密検査が必要な患者さんは、主に豊岡病院に紹介しています。

私は普段、兵庫県立こども病院(神戸市)で勤務し、当院では第1・3水曜日の外来を担当しています。開設当初は、第1・3水曜日の午前診と第2・4木曜日の午後診のみでしたが、患者さんが増えてきたため、2024年4月から第1・3水曜日は午前・午後診となり、また、5月からは第2金曜日の午後診を追加するなどして対応しています。

2024年9月末までに、11歳から92歳の方まで、延べ620人が受診されました。患者さんの平均年齢は42.75歳で、全体の8割が婦人科疾患の方です。また、約2割が18歳以下の方で、ほとんどが月経困難症の患者さんです。これまで朝来市内に産婦人科がなかったため、患者さんからは「近くの医療機関で受

診できて助かった」という声が多く寄せられています。女性医師が複数いることも受診しやすさにつながっているようです。私もこうした声が励みになっています。

診察では、丁寧に対応することを心がけています。時間的な制約はありますが、可能な限り患者さんのご希望に沿いたいです。また、夜間・休日などの緊急時や分娩手術などの対応をお願いしている豊岡病院とは、スムーズな連携が図れるよう努めています。

今後も、まずは安全第一に外来を運営し、スタッフとともに、知識や技術をブラッシュアップしながら標準的な医療を提供していきたいです。また、より多くの方々に当院の産婦人科外来の活動を知ってもらい、その存在意義や地域医療の理念に共鳴してくれる仲間を増やしていきたいです。

※4月から診療体制が変わりますのでホームページ等でご確認ください。TEL.079-672-3999

講演のご案内 2025年3月8日、朝来市山東町の「さんとう緑風ホール」にて、木原智子医師が「性教育が今の社会を変えられると思う3つの理由」をテーマに講演します。興味がある方は是非ご参加ください。

朝来医療センターでは感染対策を強化中 感染症を予防する習慣を身に付けましょう

朝来医療センターでは現在、感染対策を強化しています。2024年5月に赴任した感染管理認定看護師の吉盛看護師を中心に、多職種の職員で連携しながら、病院全体で感染対策の実施状況の確認や改善に取り組んでいます。



感染管理認定看護師 吉盛 奈津美 よしもり・なつみ

院内の巡回でごみの分別が適正に行われているかをチェック。中央が吉盛看護師

医師や看護師らによるICTを結成

2024年6月、医師・看護師・薬剤師・検査技師で構成するICT(Infection Control Team:感染対策チーム)を結成。週1回院内を巡回し、手指衛生や医療廃棄物の分別などの感染対策の実施状況の確認や改善指導などを行うほか、各部署の担当者と連携して、各現場での問題や課題を解決するための計画立案や実践、指導を行っています。

地域を巻き込んだ感染対策を

吉盛看護師は、コロナ禍などを経て、地域の福祉施設やクリニック、保育・教育施設、住民などを巻き込んだ感染対策の重要性を実感しています。「基本的なことですが、日頃から手洗いやうがいをする事で感染症にかかるリスクを下げることができます。地域を挙げて感染症から身を守る予防習慣を身に付けることができるような取り組みをしていきたいですね」



ICT(感染対策チーム)



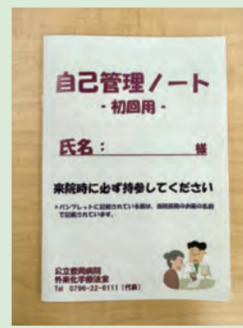
月1回、ICTで感染対策についてまとめたニュースレターを発行



病室の入り口に汚物処理に使う手袋やビニール袋を設置



外来化学療法室は、テレビモニター付きの電動リクライニングチェア8床とベッド2床を備えています。患者さんはイヤホンを着けてテレビを見たり、音楽を聴いたり、読書したりとリラックスして治療を受けられます。



患者さんには、緊急時の連絡方法や副作用対策について書かれた「自己管理ノート」をお渡しし、治療後の自宅での身体の状態をチェックしてもらっています。

豊岡病院の外来化学療法室では、通院で抗がん剤治療を受けられます

豊岡病院は、地域がん診療連携拠点病院として、がん診療ガイドラインに基づいた標準治療を行っています。外来化学療法室では、入院することなく、通院(外来)で抗がん剤治療を受けることができます。

がん化学療法とは

がん化学療法とは、抗がん剤を用いてがん細胞の増殖を抑えたり、破壊したりする治療法です。豊岡病院は2005年に外来化学療法室を開設。がん化学療法に関する専門資格を持つ医師や看護師、薬剤師らが連携し、1カ月300件以上の治療を行っています。

抗がん剤開発の歴史

抗がん剤は、第2次世界大戦で使用された毒ガス(マスタードガス)をきっかけに開発されました。被ばくした兵士の白血球が減少するという事象に着目され、白血病治療の研究に活用されました。その後、いわゆる抗がん剤として殺細胞性の薬剤が、あらゆるがんの研究、臨床に応用されました。

原理は簡単に言うと、細胞周期のスピードの差を利用しているのです。がん細胞は正常細胞と比較して細胞周期が早く、細胞内でDNAを作るスピードが速いのです。従って、一定の時間内にがん細胞の中に抗がんの剤が入り込めば、がん細胞はDNAを作ることが出来ずに死にます。一方、正常細胞はDNAを作る速度が遅いために、時間が来れ

ば薬剤は細胞外に出て行ってしまうために死ぬことはないのです。ただし例外はあります。正常細胞の中でも細胞周期の早い細胞、消化管粘膜細胞、骨髄細胞、毛根の母細胞等々です。ですから副作用として嘔気、嘔吐、下痢といった消化管症状、白血球をはじめとする骨髄細胞の減少、脱毛といった症状が出てくるわけです。

この殺細胞性の薬剤開発は2000年くらいまで盛んに行われ、多くの患者が恩恵を受けました。ただ、抗がん剤の開発は莫大な費用と年月を要します。また、投与の仕方を工夫しても、効果は限度がありました。

そこで次に注目されたのが、「がん細胞の特定の標的(分子)を狙いうちにしてその機能を抑える薬剤」である分子標的薬です。この薬剤はモノクローナル抗体の開発やコンピュータとゲノム医学の進歩によりもたらされ、周辺科学の進歩なしではあり得ませんでした。研究は1980年代から始まりましたが、臨床導入は1990年代後半です。この薬剤は現在も大いに研究、開発されています。

次いで出てきたのが、免疫チェックポイント阻害薬です。免疫とは、細菌やウイルスなどの「異物」を排除する仕組みです。がん細胞は、体内でできたものですが、異物でもあります。当然、体の免疫システムは異物の排除にかかるわけです。



私たちの体では、推定で毎日約3000個のがん細胞が生まれていると言われています。免疫システムは、これらを片っ端から排除してくれているのですが、中にはそれをすり抜ける能力を持つものもあります。そんながん細胞を、すり抜けないようにするための薬が免疫チェックポイント阻害薬です。ノーベル医学生理学賞を受賞した本庶佑氏の研究をもとに開発されました。2010年代以降、臨床応用され、現在も研究、開発されています。

新薬により期待できる予後が延長

これらの新しい薬の登場により、例えばステージ4の大腸がんでは、無治療で予後が6~8カ月であった時代から、殺細胞性抗がん剤の併用で20カ月、分子標的薬を上乗せすることで30カ月以上の延長が見込めるようになりました。また乳がんの中で予後が不良ながんにおいても、分子標的薬を使用することでステージ4でも5年以上予後が期待できるようになりました。肺がんにおいても、ドライ

バー遺伝子変異を調べて、それを標的とした分子標的薬を選択したり、免疫チェックポイント阻害薬を使用したりすることで、予後が延長しています。

分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬は殺細胞性抗がん剤に比べ、消化管症状や骨髄抑制、脱毛といった体への負担は少ないですが、皮膚障害や心障害、内分泌障害など新たな副作用も出現することが分かっています。

安心・安全な治療を提供するために

豊岡病院では、現在これら3種類の薬剤を使った治療を積極的に行っています。がんの種類によって、使い方やレシピは異なりますが、副作用が出ないように薬剤を工夫し、出ても直ちに処処できる体制を取っています。こうして従来入院しなればできなかった抗がん剤治療も、可能な限り外来通院しながら受けられるように、努めています。



がん化学療法委員会委員長の坪野充彦(つぼの・みちひこ)副院長(左から3人目)ら外来化学療法に携わるスタッフ

但馬地域でPET検査が受けられるようになりました!

がんの病巣の状態や腫瘍の良性・悪性の区別、転移状況・再発の診断などに利用される医療機器「PET-CT」が、公立八鹿病院(養父市)に導入されました。

豊岡病院との共同利用で、PET(陽電子放射断層撮影)検査が必要な患者さんは、八鹿病院で検査を受けていただきます。これまでは但馬地域にPET検査を受けられる施設がなかったため、京都府福知山市

などの病院に依頼していました。PET検査では、体内に投与した放射性薬剤の様子を分析し、画像化します。「PET-CT」は、PETと臓器などの形を捉えるCT(コンピュータ断層撮影)を組み合わせた装置です。一度に全身の画像を撮影できるため、より正確な病気の状態の把握につながります。

TOPICS 各病院のお知らせ情報

豊岡病院



昨年の訓練の様子

集団災害医療訓練を実施します

近年地震や気象災害が頻発しており、南海トラフ地震の発生も危惧されています。また、北但大震災発生から100年となるのを機に、当院は2025年から毎年5月23日を「災害の日」と定め、直近の金曜日の午後、病院の公式行事として集団災害医療訓練を実施することとしました。

今年は**5月23日に訓練を実施**いたします。**当日の午後は、外来診療・検査等を原則休診**とさせていただきます。大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解と協力をお願いいたします。

出石医療センター



骨粗鬆症対策チームの取組みを発表!

2024年11月、病院組合の合同学会において、当院の骨粗鬆症対策チームがこれまでの取組みを発表しました。豊岡市の骨粗鬆症検診を受託して早4年、受検者は延べ266人に上ります。この間、測定部位に大腿骨を追加して検査精度を上げ、骨折予防の啓蒙活動も充実してきました。会場からは多くのご質問があり、大きな関心を寄せて頂いていることを実感しました。

骨粗鬆症は骨がもろくなる病気です。予防や、早めの検査・治療が大切です。気になる症状がある方はスタッフにお声掛け下さい。

朝来医療センター



骨密度測定装置の更新について

2024年12月に、新しい骨密度測定装置を導入しました。これにより非常に正確な骨密度測定が可能となりました。骨粗鬆症等が気になる方は是非当院の整形外科を受診してください。

日高クリニック



両親学級について

日高クリニック産婦人科では、両親学級で赤ちゃんを迎えるためのサポートをしており、大変好評です。なお、産婦人科外来は整備工事に伴い、1階(検査室前)に移転し新しくなりましたので、よろしくお願いたします。